

郷土を知る 昔々の そお市

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

第52回

昭和20年8月6日

空襲の記憶

昭

和20年8月6日。

この日は何の日と聞かれたら、『広島原爆の日』と答える方が多いかもしれません。しかし私たちの曾於市でも空襲があり、多くの犠牲者が出た日でもあります。

この日の正午過ぎ、米軍は都城にて大規模な空襲を実施。その後、曾於市も、焼夷弾投下や機銃掃射による被害を受けました。

末吉駅や岩川駅、兵舎として利用されていた各学校舎や寺院などの建物、屋外にいた人々が狙われ、多くの死傷者や家屋火災がありました。

この時、月野の岩川飛行場付近で奉仕作業をしていたM氏（当時13歳・岩川工業学校2年）は、次のとおり証言しています。

昭和20年8月6日昼頃、快晴の中、宮田山中腹を都城方面へ飛んでいく複数の米軍機が見えた。（そう言えば数日前、都城遊学の友人から空襲予告ビラを貰ったことや、岩川飛行場の整備員たちが空襲の雑談をしていたことを思い出した）しばらく経ってから突然、雑木林から米軍機（P-47）が下降して、

操縦者の左顔面が見えた瞬間「ダッダッ」と銃撃音がしたので、反転して杉林へ逃げた。その機体の色・形・力強さを今でも覚えている。

米軍機が去った後、河原集落の自宅が気になり坂を下った。途中、岩川駅周辺は至るところが攻撃されており、貨車に弾丸数発の痕があらたのを見た。（覚照寺では痕が現存）

次に岩川小の前を通り青年学校（現大隅中）へ小走りで向かうと、木造校舎は全焼（駐屯隊長は機銃掃射で即死）していた。ガラス窓の破片が飴玉のように曲がり変形していた。被害者によると米軍機は3〜4回繰り返し攻撃してきたという。

そして母校岩川工業（現岩川小）を通ると、旧正面左側に講堂があっ



戦争遺跡リーフレット
図書館や各中央公民館にあります



覚照寺の機銃掃射の痕

来年は戦後80年です。戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に継承するため、当時の体験談や資料などを探しています。提供できる方は、どうぞ文化財係までご連絡ください。

たが、内部のステージに負傷者数名がいて「水をくれ」「鎮痛剤を」と喚き声がしていた。それを見て私は、自宅へ走って向かった。

8月6日、市内でこのような事実があったことを知ってください。そして今後も私たちは、当時を必死に生き抜いた方々の「声」に耳を傾け、それを語り継ぐ努力が必要です。